

## 平成 28 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	02	01	06	124100	空港利用促進事業
総合計画	分野	暮らし			
	政策	2-2	生活基盤の充実		
	施策	2	公共交通の確保		
目的	いわて花巻空港の利用促進				
対象	いわて花巻空港の利用者				
意図	いわて花巻空港の利用者増加を図る				
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
○空港の利用促進 ・岩手県空港利用促進協議会ほか3団体への負担及び補助を行い、連携して利用促進活動を実施 ○要望活動・PR活動 ・新規路線就航及び増便にかかる要望活動、就航先都市でのPR活動					
市民参画の有無 [ 無 ]					
市民協働の形態		共催	○ 実行委員会・協議会		事業協力・協定
		後援・協賛	○ 補助・助成		委託
活動指標 (上記「事業概要」に対応)	単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
① 航空会社、国等への要望活動	回	計画	10	10	
		実績	4	6	
② 利用促進協議会等関係団体との協議、検討会	回	計画	10	10	
		実績	12	10	
③		計画			
		実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)	単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
① 花巻空港利用者数	人	目標	404,000	404,000	
		実績	399,427	417,130	
② チャーター便利用者数 (花巻空港利用者内数)	人	目標	25,000	25,000	
		実績	8,232	8,642	
③ 定期便路線数 (国内、国際)	路線	目標	4	4	
		実績	4	4	
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)	
名古屋線の前年対比15%増及び国内チャーター便の増便により、利用者数については目標値を上回る実績となったが、チャーターについては、当初予定されていた中華航空による定期チャーター便が春季のみであったことから、目標値を大幅に下回る結果となった。	
目的妥当性	公共関与の妥当性 <input type="radio"/> 妥当である <input type="radio"/> 見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない ビジネス客、観光客が花巻市に訪れるための公共交通であるが、利用促進等PR活動を展開しないと利用率の低下が懸念され、路線の便数減や運休に繋がる恐れがあることから、岩手県や市、関係機関が連携して利用促進活動に取り組む必要がある。
有効性	成果の向上余地 <input type="radio"/> 向上余地がある <input type="radio"/> 向上余地がない 国際線のチャーター便就航や定期路線開設に向けた取り組みや、花巻空港の利便性のPRを、関係機関と連携を図りながら進めていく必要がある。
効率性	事業費・人件費の削減余地 <input type="radio"/> 事業費の削減余地がある <input type="radio"/> 人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない 関係団体の活動見直しを提言するなどして一本化できる活動等があれば、負担金補助金を削減する余地はある。
公平性	受益と負担の適正化余地 <input type="radio"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="radio"/> 費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である 花巻空港の利便性向上は、花巻空港を利用する全ての方に受益があり、公平・公正である。
総合評価 …上記評価結果の総括	
国内線就航都市でのPR活動により国内定期便の利用者数については、年々増加している。また、チャーター便については、国際チャーターの就航状況に大きく左右されることから、定期便化を視野に入れた利用促進を図る必要がある。 PR不足による利用率低下は、路線運休に直結することから、利用促進のため利便性のPR活動等は今後も重要であり、関係機関と引き続き連携を図っていく。	

## 平成 28 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	02	01	06	124100	空港利用促進事業

単位：千円

		27年度 決算額 (A)	28年度 決算額 (B)	29年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		2,273	2,310		37
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	2,273	2,310		37

事業期間	<input type="radio"/> 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	-----------------------------	------	-----------------

部重点施策における目標

いわて花巻空港の利用を促進させます

事業開始の背景・経緯

花巻空港は、本市に所在する空の玄関口として、市民・県民生活の利便性向上や経済発展に大きく寄与してきたが、花巻空港のより一層の機能強化と利用促進のため、各協議会へ加入して一体となった活動展開を始めたものである。

事業概要

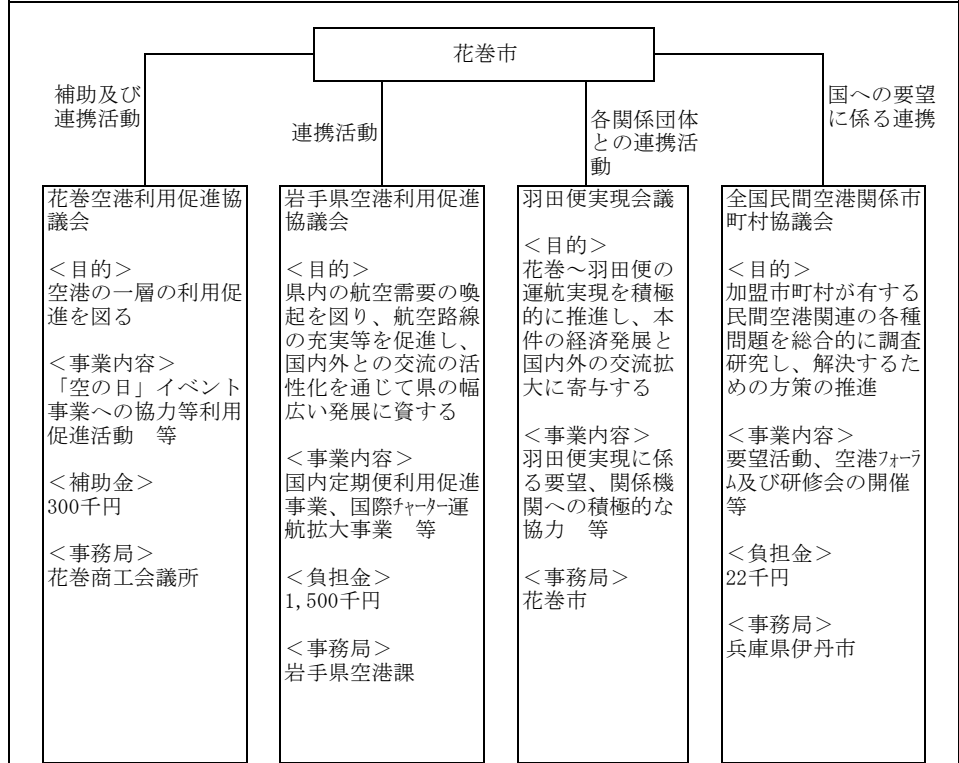
- 空港の利用促進
  - ・岩手県空港利用促進協議会ほか3団体への負担及び補助を行い、連携して利用促進活動を実施
- 要望活動・PR活動
  - ・新規路線就航及び増便にかかる要望活動、就航先都市でのPR活動

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

就航都市との交流やPRキャラバンを実施するほか、航空機利用促進のための施策等について、各協議会と意見交換を行う。また、台湾定期チャーター便の定期便化に向けた取り組みや新たなチャーター便の誘致など、県を中心とした関係団体と一体となって推進する必要がある。

担当部署 部名 商工観光部 課名 観光課 担当係長 似内 泉 内線 288  
(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。  
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



《旅費》	協議会総会、担当者会議	163 千円
	就航先都市でのPR活動	142 千円
	台湾随行	183 千円
	合計	488 千円